

石巻圏域の施策の方向 (事務局案作成にあたり参考にした意見)

資料4 参考資料

備考欄は、圏域会議内での発言を空白、第2回圏域のあとに別途様式で御意見をいただいたものについては、○印を記載しています。

1 キャッチコピー

事務局案	＜参考にしたキャッチコピー＞	委員等	備考
～～海まち空まち心まち 次の旅先いしのまき～～	「海街さんぽ ～ここに刺さる旅をしよう～」	石巻市観光政策課	○
	「海の恵みと人々の温かさに心癒されるひととき」	東松島市商工観光課	○
	「うみまちステイ」	石巻観光協会	○
	「海・街・空 心癒される時間」	東松島物産公社	○
	素敵なお客様に素敵な旅を	女川町産業振興課	○
	憩いの空間・enjoy night	齋藤 富嗣 委員	○
	針路は北北東へ！	小山 修 委員	○
	山容水態や幽玄の町石巻	葛原 明 委員	○
	未知の奥旅 石巻	松村 豪太 委員	○
	ふるさとは学びがある	後藤 正基 委員	○
豊かな食と自然と深い学びを体感	三笠 亜希子 委員	○	

2 圏域の観光の現状・課題

① 宿泊施設の充実による滞在型・周遊型観光の推進

項目	<意見>	委員等	備考
管内の宿泊施設では、ビジネス目的で利用する宿泊者が多いことから、リピート客になってもらえるように満足度を高めるコンテンツづくりが必要である。	石巻圏域の宿泊数の増加については、東北電力の原子力発電所再稼働に関する工事関係者がここ数年、一日当たり1,000人から2,000人くらい宿泊していて、そのようなビジネスの方の宿泊が石巻圏域ではあったと思う。	後藤 宗徳 委員	
	リピーターが増えれば観光客入込数も維持できると思うので、これが石巻という部分を見つけていく必要がある。	後藤 正基 代理委員	
二次交通の利便性が低く、観光施設間の移動が不便であることから、管内を周遊する乗り合いタクシーや、レンタサイクルなどの交通手段の確保が課題である。	松島から松島湾を回る航路を新規開設したが、周遊して野蒜駅など圏域内をに辿り着いて欲しいという思いがある。	小山 修 委員	
	2市1町共、JR線沿線ではあるが、仙台圏（仙台駅、仙台空港）から、物理的、時間的な距離がある。	石巻市観光戦略課	○
	二次交通が課題。	東松島市商工観光課	○
	二次交通が課題。	東松島物産公社	○
	公共交通が使いづらく（便が少なく）、自動車が無いと移動が難しい。	松村 豪太 委員	○
	観光地間の交通アクセス環境の向上（ハブ化）。	葛原 明 委員	○
宿泊施設が少なく、日帰り・通過型の観光客が多いため、石巻圏域内の市町や他の圏域との連携を強め、複数の観光施設等を周遊する観光ルートの造成が必要である。	施設間を繋げる何かがあれば石巻の宿泊観光につながるのではないかと。各施設で連携した施設間を繋ぐ導線が必要である。	葛原 明 委員	
	2市1町共、多くの観光資源を有しているが、それらが点在している。	石巻市観光戦略課	○
	観光客に、そこまで行くな、ここも行けるよというような旅行パッケージがある間と思う。	三笠 亜希子	

② 観光資源の活用促進

項目	<意見>	委員等	備考
牡鹿半島や金華山などの自然景観や石ノ森萬画館や奥松島縄文村歴史資料館、サン・ファン館などの文化施設、豊富な海産物や工芸品など、多様な観光資源を有するが、観光地としての魅力を引き上げるために十分に活用できていないため、観光客にとってより価値のある体験を提供できるよう更なる磨き上げが必要である。	「石巻ならではの」の観光地としてここを見に行くといったものがない。	池田 憲彦 委員	
	石巻市には色々見て回ることができる施設があるが、滞在時間が短い。	葛原 明 委員	
	石巻といえばマンガとアートも盛り上げていきたい。	後藤 宗徳 委員	
	東松島市の道の駅の開業、サンファン館のリニューアルなどがある。それをどう活かすか観光戦略の中の一つの鍵になると考えている。	後藤 宗徳 委員	
	これが石巻という部分を見つけていく必要がある。	後藤 正基 代理委員	
	1つ1つ石巻にあるコンテンツやリソースについて解像度を上げていくことが重要だと思う。具体的にはサンファン館のリニューアルや、アートなど、そういうテーマで皆で指さし確認していくことも大事だと思う。	松村 豪太 委員	
	震災復興の伝承施設や海産物、自然環境といった強みがある。	東松島市商工観光課	○
	近年、三陸道、コバルトライン、リアスブルーラインを走行するツーリング客が増加傾向にある。	女川町産業振興課	○
	オルレ奥松島コースや奥松島遊覧船、震災復興伝承館、牡蠣、海苔などの強みがある。	東松島物産公社	○
	圏域の観光においては自然、文化、食などを活かした観光コンテンツは十分に揃っている。	齋藤 富嗣 委員	○
観光コンテンツ誘客力強化。	後藤 正基 代理委員		
観光産業の収益力を向上させるため、食事や土産品の購入など、観光客の滞在中における消費行動を喚起するような高付加価値サービスの充実を図る必要がある。	ネイチャー系のツーリストはテントなどを持ち込むため消費単価が伸びにくい。新しい取組にトライして消費単価を伸ばしていきたい。	後藤 宗徳 委員	
	観光客の滞在時間を長くし、消費行動を促すなど、客単価の増を図る必要がある。	石巻市観光政策課	○
	ナイトコンテンツの充実。	後藤 正基 代理委員	○
	宿泊を伴うような夜のイベント等への支援を手厚くして欲しい。	小山 修 委員	

③ 情報発信の強化

項目	<意見>	委員等	備考
石巻圏域の魅力の国内外への発信を強化するため、DMO等が各種データに基づき策定したマーケティング戦略等による効果的なプロモーション実施が求められている。	圏域としてDMOを有している。	石巻市観光政策課	○
	持続的かつ効果的なDMO運営に向けた財政基盤の確立。	石巻市観光政策課	○
	圏域のコンテンツが個々でPRされており、線になっていない。PRのターゲットが不明確。	東松島市商工観光課	○
	データを基に統一的な観光戦略を作り、リソースを集中させて誘客をはかる。	石巻圏観光推進機構	○
	横のつながりや情報発信などが足りない印象。	橋本 孝一 委員	
	全国向けの宮城の良いところを「観せる」PRが必要である。	池田 憲彦 委員	
	マスメディア等によるイメージ戦略を取り入れてほしい。	三井 紀代子 委員	
インバウンドは少しずつ増加しているが、仙台・松島などの知名度の高い地域から十分に取り込めていないため、デジタルマーケティングの活用や多言語対応、インフルエンサーとの連携など、情報発信に関する外国人向けのサービスを充実させて、インバウンド誘致の強化を図る必要がある。	他地域に比べて圧倒的にインバウンドに対してのプロモーションの物量が少ないと思う。	後藤 宗徳 委員	
	県の観光PRはインパクトが足りない。	池田 憲彦 委員	
	円安の影響でインバウンド増によるオーバーツーリズムとなっているが、石巻圏域はそこまでではない。	木村 仁 委員	
	インバウンドマーケティングに不十分なのか、そもそも魅力がかけているのか。	小山 修 委員	○
	インバウンド誘客が課題。	後藤 正基 代理委員	○
	インバウンド向けの現地での案内及び発信力が課題。芸術文化を目的とした観光客への周遊観光誘導、インフルエンサーなどへの働きかけが必要。	三笠 亜希子 委員	○

3 圏域の施策の方向性及び取組

① 宿泊施設の充実による滞在型・周遊型観光の推進

項目	<意見>	委員等	備考
観光資源の磨き上げを図り、「石巻ならではの」の観光プログラムを開発して提供する（復興伝承ツーリズム、みちのく潮風トレイルやオルレなどのアドベンチャーツーリズム、アートツーリズム、スポーツツーリズム、食体験ツアー、教育旅行や企業旅行の誘致、小人数グループなどの宿泊旅行者の獲得など）。	エリア全体のテーマ、ストーリー設定。	石巻観光協会	○
	企業研修やスポーツ合宿などをターゲットとした誘致活動を実施する。	女川町産業振興課	○
	バイカーへの効果的なアプローチを実施し、バイクツーリズムの推進を図る。	女川町産業振興課	○
	遊覧船を活用した松島からの観光客の集客。	東松島物産公社	○
	多様な価値観の広がり個人の自由時間の増加、コロナ禍の影響によるソーシャルディスタンスの意識の高まりなどから個人、少人数グループでの旅行など個人の自由時間が重視されるようになった。	齋藤 富嗣 委員	○
	マンガ館の企画展に合わせたイベント（コスプレ、マンガ家体験）。	後藤 正基 代理委員	○
	「東日本大震災からの復興アジェンダ」は全国の中でもここだけものだと思う。	松村 豪太 委員	
	コンテンツツーリズムのメニューというものを1つでも多く作っていかねばならない。	後藤 宗徳 委員	
	石巻といえばマンガとアートも盛り上げていきたい。	後藤 宗徳 委員	
	スポーツツーリズムの合宿、大会の誘致というものは非常に大きいマーケットだと思う。それに加えて、大学などの文化的な活動や合宿による文化的ツーリズムも加えていただきたい。	大森 信治郎 委員	
石巻圏域の宿泊者数が大きく伸びた要因のスポーツツーリズム、あるいは芸術などの文化ツーリズムの推進に力を入れていく必要がある。	後藤 宗徳 委員		

複数の観光地をタクシーやバス、レンタサイクルなどの二次交通を利用しながら周遊できるモデルコースを造成し、観光客が迷わずに地域内をスムーズに移動できるようにする（観光地型Maasの導入、交通情報の提供、案内スタッフの配置など）。	観光シーズンに合わせた臨時バスや、特定の観光・宿泊施設行きのタクシー割引といった実証実験の実施。	東松島市商工観光課	○
	様々なバックグラウンドをモデルにした、複数の観光コースの作成。	東松島市商工観光課	○
	東松島市の道の駅完成後、圏域道の駅間の連携強化を図り、集客・周遊を促進する。	女川町産業振興課	○
	土日祝日に合わせた奥松島⇄野蒜駅間の二次交通の解消。	東松島物産公社	○
	周遊型コンテンツの推進（モデルコースを何コースか作り、施設の代表者とプランの打合せ）。	葛原 明 委員	○
	公共交通（特に路線バス）について、乗り継ぎや乗り場などに関するインターネットによるわかりやすい情報提供。	松村 豪太 委員	○
	ライドシェアに関する実験的取り組み。	松村 豪太 委員	○
	空港や駅での情報発信、高速バスインバウンドフリーパスを使った観光地モデルコースの作成。	後藤 正基 代理委員	○
	仙台Maasに石巻圏でも利用可能なチケットを追加する。	後藤 正基 代理委員	○
	一時滞在者に向けた、新たなモデルコースを提案し滞在を促す。	三笠 亜希子 委員	○
周遊コンテンツについて、エリア内の鉄道駅や道の駅で発信を行う。また、到着時間帯別に周遊できるコースを予め準備し提案する。	三笠 亜希子 委員	○	
少人数の団体向けに、バスのほかタクシー活用についても検討して欲しい。	後藤 宗徳 委員		

観光客の多様なニーズに応えるため、宿泊施設におけるリノベーションや滞在中のサービス充実などを支援する（Wi-Fi整備などの宿泊施設の高付加価値化改修、キャッシュレス決済の導入、DX人材育成、ナイトタイムコンテンツの開発など）。	観光客の滞在時間を長くし、消費行動を促すなど、客単価の増を図る必要がある。	石巻市観光政策課	○
	「体験型コンテンツ、ナイトタイムコンテンツ、周遊型コンテンツの不足」については、三陸地域では厳しい部分があるので、知見がある方がこの地域に来てアドバイスしてくれるとありがたい。	後藤 宗徳 委員	
	DXを使って人手不足を解消するために何をすればよいのか、学ぶ機会が欲しい。AIの活用方法などについても導いていただければと思う。	後藤 宗徳 委員	
	宿泊を伴うような夜のイベント等への支援を手厚くして欲しい。	小山 修 委員	

② インバウンド獲得に向けた観光資源の磨き上げ

項目	<意見>	委員等	備考
各種データに基づき、国別や年齢層などのターゲティングを行ったプロモーション戦略により、海外インフルエンサー等を活用したSNS発信など、石巻圏域の魅力を海外に発信するプロモーション活動を実施する（田代島やマンガ文化などの需要が高いコンテンツの発信など）。	統計を活用した石巻圏域におけるメインターゲットの明確化（年代・地域（国籍））。	東松島市商工観光課	○
	インバウンド事業の受け入れ。	東松島物産公社	○
	データを基に統一的な観光戦略を作り、リソースを集中させて誘客をはかる。	石巻圏観光推進機構	○
	広域で交流事業に位置付けている中学生の「おにぎり大使」は観光面でどう発展していくのか、豪州から人が訪れているのか、産業交流まで至っているのかなどで、「来ていただく魅力」の観点を考えては。	小山 修 委員	○
	空港や駅での情報発信、高速バスインバウンドフリーパスを使った観光地モデルコースの作成。	後藤 正基 代理委員	○
	インバウンド観光客の滞在履歴を分析するためアンケート活用や他地域における人気コンテンツを分析し集中的に発信。	三笠 亜希子 委員	○
	ターゲティングを明確にして、物量をもっと注ぎ込まないと他地域に勝てないと思う。	後藤 宗徳 委員	
	特にインバウンドが弱いので、外国人に宮城に来てもらうため、海外向けCMによるPRが大事である。	池田 憲彦 委員	
案内表示やWEBサイトなどの多言語化を強化し、石巻圏域の文化や自然を生かした特別な体験プログラム等の外国人観光客向けのサービスを充実させ、インバウンド受入環境を整備する。	インバウンド事業の受け入れ。	東松島物産公社	○
	外国語（英語・中国語）に対応したサインの充実。	松村 豪太 委員	○
	公共交通（特に路線バス）について、乗り継ぎや乗り場などに関するインターネットによるわかりやすい情報提供。	松村 豪太 委員	○
	外国人向けガイドの育成。	後藤 正基 代理委員	○

③ 交流人口・関係人口の拡大に向けた地域間交流の推進

項目	<意見>	委員等	備考
仙台・松島圏から石巻圏域へ足を運んでもらうため、2市1町及び近隣地域との連携強化を図り、広域的な観光ルートの企画や交流イベントなどを実施する。	観光需要による経済効果を向上させるには、その要素として、観光交流人口を増加させる必要がある。	石巻市観光政策課	○
	各市町それぞれの事情や特色等から、独自の取組も必要ではあるが、圏域2市1町が連携し、スケールメリットを活かした観光誘客を推進することで、	石巻市観光政策課	○
	東松島市の道の駅完成後、圏域道の駅間の連携強化を図り、集客・周遊を促進する。	女川町産業振興課	○
	横のつながりや情報発信などが足りない印象を受けたので、課題を解決しながら前に進んでいく必要がある。	橋本 孝一 委員	
	戦略的な情報発信、広報連携。	三笠 亜希子 委員	○
県内外の地域と積極的に交流・連携して、石巻圏域のファンを増やすために、交流人口の増加や、定期的に訪れてもらえる関係人口の創出に向けて、圏域外での交流イベント等を実施する（みちのくGOLD浪漫な	地域外の方に観光コンテンツを発掘してもらうイベント（プレゼン）を実施する。	三笠 亜希子 委員	○
	観光客の受け入れ、魅力的な観光コンテンツ作りというものも大事だが、それに加えて街づくりや地域貢献も大切。宿泊先の地域に貢献したいという応援ニーズがある。	庄子 真岐 委員	
石巻圏域の観光振興において重要な役割を果たすDMOを支援し、DMOが中心となり、石巻圏域の2市1町及び企業・団体、住民などの多様な関係者を巻き込み、地域一体となった観光振興に向けた合意形成を図る。	持続的かつ効果的なDMO運営に向けた財政基盤の確立が課題。	石巻市観光政策課	○
	将来に向けた圏域の観光を考える上で、石巻圏観光推進機構が担う役割は大きいと考えられる。	石巻市観光政策課	○
	宮城県、各市町、各観光協会、DMOそれぞれの観光戦略がバラバラで効果的な施策を実施できていない。	石巻圏観光推進機構	○
	DMOの創設体制強化について、設立への支援も大事だが、財源確保に苦労している既存DMOに対するバックアップをお願いしたい。	後藤 宗徳 委員	